

ハード整備以外の取り組み

「川づくり」から「まちづくり」へ ~奏でつづける=「持続性のある取り組み」~

目標に込めた思い

遠山川は、「人(地域住民やこの地を訪れる人)」、「自然(山里、周辺環境、河川環境)」、「文化(歴史、祭祀、街道、城下町)」を、ゆったりと抱いてきた、唯一無二の中心的存在です。

人・自然・文化を「音符」に例え、遠山川という「五線譜」に、今も、そしてこれからも、すばらしい「ハーモニー」を「奏で」ていけるよう願いを込め、目標(基本理念)としました。

さらに、「奏でつづける」には、将来にわたって人々の安全・安心を「護る」、自然環境を「護る」(環境・景観の保全)、文化・伝統を「守る」(伝承)という意味を込めています。



目標達成に向けた取り組み(地域住民との協働)

①「遠山郷いい川づくり推進会議」の結成

川づくりの目標を推進するための活動を行う組織として、H25.10.24に地域の代表者の方々と結成されました。委員22名、オブザーバー5名で構成され、年間活動計画を策定し、実施→評価→改善を行い、次年度の活動へ活かす取り組みを行っています。具体的な活動としては現場研修会、河川維持活動、モニタリング調査等を行っています。



現場研修会の様子

②河川維持活動の実施

上記の推進会議を河川愛護活動支援事業「活動団体」へ登録し、地区の他の活動団体や地域住民と協働で河川敷地の草刈りや、ゴミ拾い等の清掃活動を行っています。

また、活動団体の高齢化等により人力不足となる作業や、重機を使用しないと困難な作業については、「わがまちの川」美化事業により、地元建設会社と協力して作業を行っています。



河川維持活動の様子

③モニタリング調査の実施

多自然川づくりは、川の自然な営みや複雑な自然現象の中で、変化を許容する川づくりです。そのため、工事が完成した時点で終わるのではなく、その後の川づくりの目標達成状況についてモニタリング調査を行うことが大切です。

遠山川においては、H27年度より地域住民と協働で、定点観測等のモニタリング調査を実施しています。



定点観測:遠山中学校横

取り組みの効果

遠山川に近づく人が多くなりました!

ハード整備、河川維持活動、遠山郷いい川づくりのPR等の活動を行うにつれ、遠山川で遊ぶ人が増えてきました。河川敷を日常の散歩道として使用したり、魚のつかみ取りやスイカ割りのイベントを行う等、今までになかった光景を確認することができました。

より一層地域に愛される川となり、今以上に川を大切にしてもらえるよう、今後も地域住民と協働で遠山郷いい川づくりを推進していきます。



散歩する親子



魚のつかみ取り



スイカ割り

「信州のいい川づくり」モデル事業 (一) 遠山川 飯田市 和田



川づくりの目標

『人・自然・文化のハーモニー! 奏でつづける遠山川』

完成イメージ図:道の駅「遠山郷」周辺



着工前の様子:道の駅「遠山郷」周辺

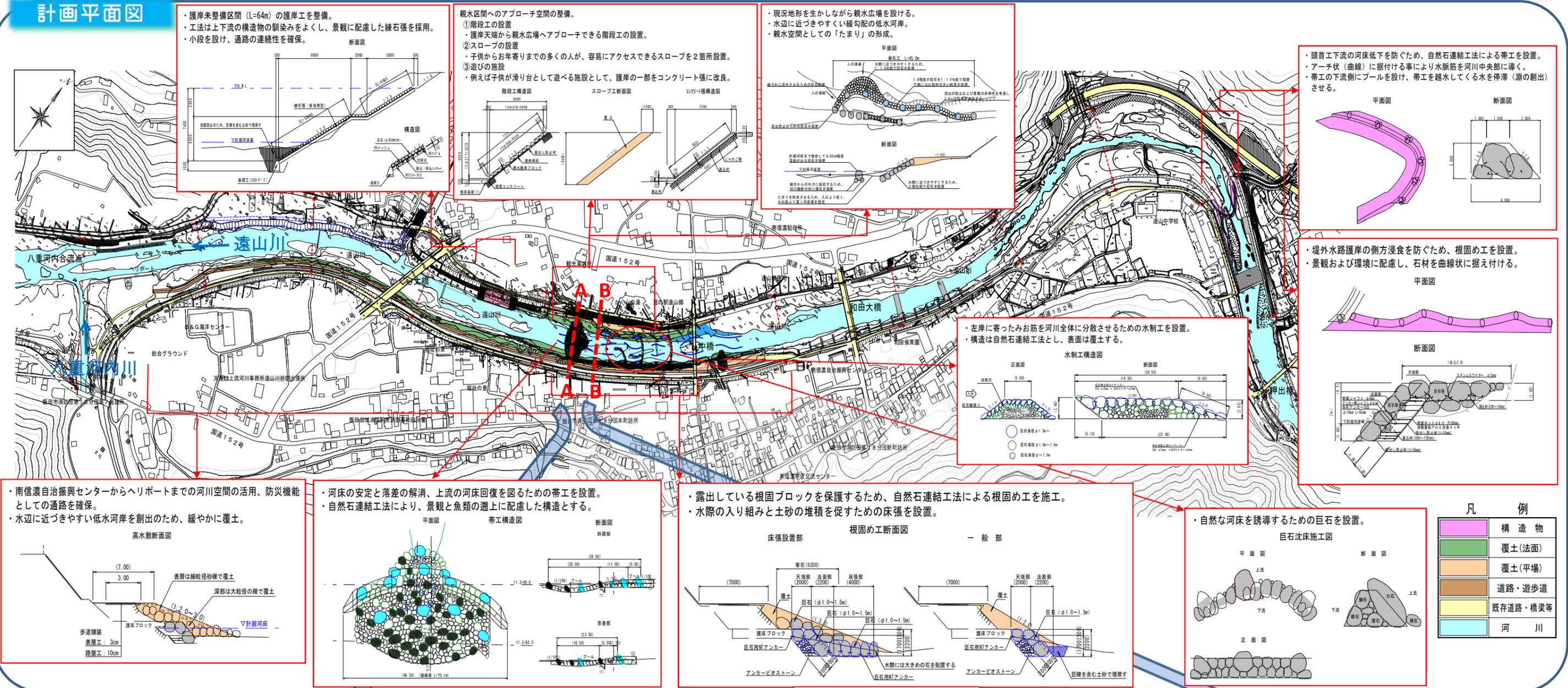


長野県建設部
下伊那南部建設事務所

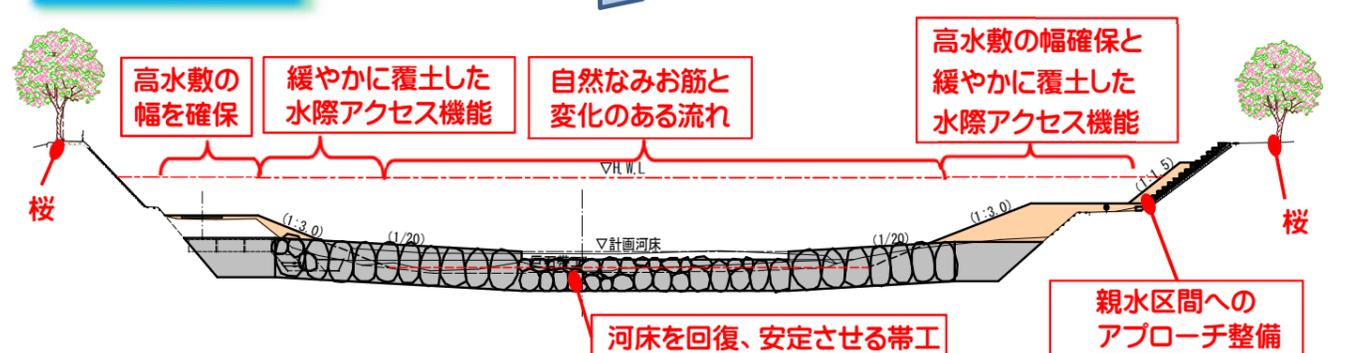
【事業概要】

遠山川は、南アルプスを源流とし、天竜川へ合流する一級河川です。当箇所は重要水防区域に指定されており、周辺には緊急輸送路である(国)152号、防災拠点である飯田市南信濃自治振興センター、ヘリポート等があり、生活拠点である学校等の公共施設、観光施設の道の駅等が存在し、地域の生活・経済の拠点となっています。しかし、近年の豪雨等による河床低下が著しく、増水時の洗掘により既設護岸工の損傷が危惧され、堤内地に甚大な影響がでる恐れがあるため、安全・安心な川づくりを推進すべく、最新の多自然川づくりの考え方を取り入れると共に地域の皆様と共に計画検討を進めました。現在、局部的な河床低下等のネック箇所の解消を図り、河川が本来有している多様な河川空間を創出するため、遠山川の自然石を利用した治水対策を進めています。また、低水部では花火大会が毎年開催される等しており、道の駅「遠山郷」を中心とし、地域と協働しつつ特色のある親水設備の整備を進めています。

計画平面図



A-A断面



B-B断面

